

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.8 2010年4月30日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

コアックス、無料の電話会議サービスを開始

株式会社コアックス(東京都豊島区)は、電話会議サービス「テレカン君」の提供を開始した。(4月6日)

テレカン君は、3人(拠点)以上での電話会議が簡単に行えるサービスで、アカウントの作成をすることなく予約ができる。ただし、予約は、15分間のみ有効のため、会議を行う直前に予約をする必要があると自社サイトで説明されている。またサービスの利用は無料だが、利用時には発信者番号を通知する必要がある。

今回のサービスは、同社で開発されている「Brekeke PBX」の機能を使って提供されている。同社では、この機能を気軽に体験してもらうためにこの無料サービスを始めた。Brekeke PBXは、オフィス向けからコールセンタまでサポートした電話システム。SaaS対応のマルチテナント機能を備えており、電話サービス以外にも、ネットワークゲームの音声サーバや音声一斉放送システムなどさまざまなサービス用途に使われているという。

コアックスは、1999年の設立以来、IPコールセンタ構築支援、コンサルティングの他、プレディクティブ・ダイヤラーの開発、ブラウザ共有システムの開発などを行っており、新しいIPコミュニケーションの実現を目指して展開している。

北電情報システムサービス、SaaS型テレビ会議サービスを開始

北電情報システムサービス株式会社(富山県富山市)は、パソコンとインターネットの接続環境があればすぐに利用できるSaaS型のテレビ会議サービス「TAIMEN」を開始した。(4月1日)

TAIMENサービスの特徴は、(1)通信帯域の負荷が小さく、低帯域での利用も可能である、(2)セキュリティはSSL

暗号化を採用している、(3)同時会議開催の数や会議への参加人数の制限がなく完全定額制である、(4)音声、映像、データを融合した情報共有や掲示板、スケジュール表などが利用できる、(5)会議呼出はアドレス帳から相手をクリックするだけで簡単に会議が始められる。また会議の予約機能も提供する、などがある。

サービス価格(税別)は、1IDあたり月2,900円。5月31日までの申込分で、初期費用と6月末までの利用料金が無料になるキャンペーンを実施している。

TAIMENは、富山県南砺市が実施した「総務省地域ICT利活用モデル構築事業」によって開発された。南砺市は、このシステムの普及による産業振興と地域活性化を目指してICT利活用推進協議会を設立。同協議会のメンバーである北電情報システムサービスがサービス提供を行う。

NTT ビズリンク、テレビ会議多地点接続サービスのサービスラインナップの強化を発表

NTTビズリンク株式会社(東京都文京区)は、テレビ会議ASPサービス「フレッツIP多地点サービス」の多地点利用料金プランを追加、サービス開始すると発表。(4月1日)

フレッツIP多地点サービスは、多地点接続装置(MCU)の機能をNTT東日本・西日本の提供するフレッツ光(Bフレッツ・フレッツ光プレミアム)、フレッツADSL等を介して提供するサービス。

今回のプラン追加には、昨今のHD対応のテレビ会議システムの価格低下が進み、急速にHD対応テレビ会議システムの導入を希望する企業が増えているという背景があるという。そのため、高品質のHD対応テレビ会議を安価に利用できるサービスプランの追加を中心にフレッツIP

多地点サービスの多地点利用料金プランを見直すことにした。

フレッツ IP 多地点サービスは、IP テレビ会議サービスとして 2003 年に SD サービスを提供開始。その後、重要会議など高画質を要求されるユーザの要望に応えるため 2007 年には HD に対応したサービスも開始した経緯がある。

今回のサービス追加には 2 つのポイントがある。(1) Standard ラインナップの追加。従来の多地点利用料金プランに比べ、基本的な機能に抑え HD サービスの価格を大幅に下げた新ラインナップを追加。(2) 利用ニーズに応じた、「Premium」、「Standard」、「Basic」の三段階のサービスラインナップの提供。Premium と Standard ラインナップは、HD/SD を選択可能だが、HD Basic は今後の提供に向けて検討しているという。

Premium は、多彩な画面レイアウト、SD/HD の混在会議、資料共有機能、多地点テレビ会議接続機能を提供する。Standard については、基本的な画面レイアウトや資料共有、多地点テレビ会議機能を提供する。Basic は、2 種類の画面レイアウトなど必要最小限に機能を限定し、安価に多地点テレビ会議接続機能を提供する。

価格(消費税込み)については以下の通り。

Premium の HD タイプ(HD Premium)については、基本費が 210,000 円/40 同時接続。利用費は 65,100 円/同時接続。また、SD タイプ(SD Premium)については、基本費が 105,000 円/40 同時接続。利用費は、26,510 円/同時接続。

Standard の HD タイプ(HD Standard)は、基本費 105,000 円。利用費 31,500 円/同時接続。また、SD タイプ(SD Standard)は、基本費 84,000 円で、利用費は 21,000 円/同時接続。

Basic の SD タイプは、定額制と従量制がある。定額制については、基本費は無料だが、利用費は、21,000 円/同時接続。また従量制については、基本費が 525 円/端末で、利用費が 21 円/分。

テレビ会議サービスは、ヴィジュアル・コミュニケーション事業部が担当している。

ポリコムジャパン、IP 音声会議システム エントリーモデルを発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、SIP 対応の IP 音声会議システム エントリーモデル「Polycom SoundStation IP 5000」を 4 月 9 日に発表。



Polycom SoundStation IP 5000(ポリコムジャパン資料)

Polycom SoundStation IP 5000 は、ポリコムの Polycom HD Voice 技術や Polycom Acoustic Clarity 技術を搭載し、SIP 環境での相互運用性を備えた低価格システム。

また、コンパクトなため卓上や小型テーブルの上に設置が可能。マイクは 3 つの高感度マイクを内蔵した 360 度集音で、約 2.1m の範囲をカバーできる。加えて、雑音の原因の可能性となる携帯電話や無線デバイスの干渉を防ぐ技術も搭載している。

高解像度バックライト付きディスプレイに日本語をはじめとする多言語を表示可能。さらに、Power Over Ethernet(PoE)に対応。オプションにて AC 電源キットも提供。

希望小売価格は、オープン。販売開始は、4 月 9 日。とくに、小規模な会議室や役員室、あるいは中小企業ユーザ(SMB)向けに最適という。

(次ページへ続く)

タンバーク、マイクロソフト OC 2007 と標準規格のビデオ会議との HD 接続を可能にするメディアゲートウェイを発表

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、「TANDBERG Advanced Media Gateway(タンバーク アドバンスド メディア ゲートウェイ)」を発表した。(3月29日)パンフレット表記は、「TANDBERG AM GW 3600 Series」。

この TANDBERG AM GW 3600 Series は、「Microsoft Office Communicator 2007 R2」と、標準規格のビデオ会議やテレプレゼンスシステムを、HD 解像度でシームレスに接続できるシステム。マイクロソフトのリアルタイムビデオ(RTV)フォーマットをビデオ会議業界標準の H.264 に変換する。

タンバークによると、マイクロソフトのデスクトップ PC とグループシステム間のコラボレーションはこれまで不可能だったが、この製品により可能になったという。また、「TANDBERG Video Communication Server(VCS)」と組み合わせることで、社内でのビデオ会議への投資価値が上がり、これによりビデオ会議の利用に拍車がかかることを同社では期待しているようだ。

*関連記事・定期レポート Vol.11 No.22 2009年11月30日号

ラドビジョン、iPhone や Blackberry でテレビ会議を制御管理する携帯端末向け無料アプリケーションを提供開始

RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)は、SCOPIA 会議ソリューションにおいて、最新携帯端末の利用を可能にする「SCOPIA Mobile」の提供開始を発表した。(3月23日)

SCOPIA Mobile は、SCOPIA Elite MCU をホストとしタッチスクリーン式のインターフェイスを搭載した「Apple iPhone」や「iPod touch」、「Blackberry」を使ってテレビ会議を制御・管理するための無料アプリケーション。同社より簡単にダウンロードインストールすることで利用できる。

SCOPIA Mobile ユーザーが制御できることは以下のとおり。
(1)会議参加者の管理。音声のミュート、ユーザー映像の表示

/非表示、特定参加者の強制切断など。(2)会議コントロール。録画の開始終了、ストリーミングの開始終了、会議のロック、会議時間の延長、参加者個別退出や会議終了など。(3)画面レイアウトの変更。個々の参加者が個別に行える。(4)参加者の招待。電話番号や IP アドレスを使ってビデオ会議端末、電話端末などを招待できる。(5)基本的なトラブルシューティングに対応。使用中のコーデック、解像度、ネットワーク速度や損失など参加者のステータスから行える。

SCOPIA Mobile は、多くのビジネスユーザーにおいて身近となり肌身離さず持ち歩く携帯端末を活用した会議開催をより活発にすると同社では期待している。また今後の SCOPIA Mobile のアップグレードなどのリリースで、最近アップル社より発売になった「iPad」などにも順次対応する予定のようだ。

ラドビジョンの開発ツール、Google アンドロイド OS 端末に対応、映像コミュニケーション機能が可能に、開発期間とコストを短縮

RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)の発表によると、ラドビジョンの開発者向けのソリューションが Google のアンドロイド OS をサポートしたことを発表した。(3月23日)

同社で提供するプロトコルスタックからクライアントフレームワークまでの開発者向けのツールで開発することで、アンドロイド OS で動作する携帯電話やモバイルインターネット端末(MID)、ネットブック、タブレット PC、デジタルピクチャーフレーム(DPF)、パーソナルメディアプレイヤーなどに、映像コミュニケーションの機能を組み込むことが可能になった。

ラドビジョンが提供するアンドロイドソリューションは、シグナリングプロトコル、コールコントロール、アプリケーションフレームワーク、コーデックを含む、映像コミュニケーションをアンドロイド端末に組み込むために必要な全てのものを提供するという。このサポートにより、開発者はより短

期間かつ低コストでアンドロイド向けのソリューションの開発が行えるようになると同社では説明する。

対応した開発者向けツールは、「BEEMOBILE」、「VoIP VT Application」、「3G VT Application」、「SIP Developer Suite」、「3G-324M Toolkit」がある。

事業動向-国内

ポリコムジャパンの代表取締役社長に元 NTT 出身の柏木街史氏就任

ポリコムジャパン株式会社（東京都千代田区）は、柏木街史氏がポリコムジャパンの代表取締役社長に就任したと発表した。（4月5日）

ポリコムにとって日本市場は、世界最大のビデオ会議市場のひとつとして非常に戦略的な市場。世界的な経済不況の中であっても、日本でのビジネスは引き続き拡大しているという。ポリコムジャパンでは、数ヶ月間に渡り営業とサービスに携わる従業員を増員してきた。

柏木街史氏は、国際的な通信およびIT分野で25年以上にわたって要職を歴任した経験を活かし、日本市場におけるビジネス戦略を指揮し、さらなるシェア拡大を担う。柏木氏は、東京大学法学部を卒業後、日本電信電話株式会社に入社。後にカリフォルニア大学ロサンゼルス校にてMBAを取得し、NTTアメリカ社にてデータセンターサービス担当上級副社長を務めるなど、日本や米国での業務経験を有する。ポリコム入社前には、NTTコミュニケーションズ株式会社ネットワーク事業部で、アジア太平洋の主要キャリアとのコラボレーションをベースに、グローバルネットワークの品質改善のリーダーを務めた。

事業動向-海外

アルカディン、シングテルと戦略的提携、アルカディンサービスをシングテル会議サービスブランドで提供

アルカディン・グローバル・カンファレンシングは、シンガポールテレコム（シングテル）と戦略的な提携関係を締結したと

発表した。（3月30日）

この提携によって、シングテルは、同社の仮想会議サービス「ワールドカンファレンス」を利用するシンガポールの顧客に、アルカディンの電話・Web会議およびコラボレーションソリューションを独占的に提供することになった。

シングテルにとっては、アルカディンと提携することでワールドカンファレンス・サービスの強化を図る考え。また一方で、アルカディンにとっては、今回の提携はアジア太平洋地域での同社のプレゼンスの拡大に寄与すると期待する。アルカディンシンガポール支社は、シングテルと緊密に連携し、シングテルのワールドカンファレンス・ブランドの成長と市場シェア拡大を支援していくことになる。

アルカディンは、電話・Web会議サービスのプロバイダー。「Arkadin Anytime」、「Arkadin Event」、「Arkadin Anywhere」などのサービスを提供する。2001年創業。アジア、欧州、北米23カ国に拠点をもち、600人以上の従業員が9000を超える顧客企業を24時間365日サポートする。日本法人は、2005年にアルカディン・ジャパン株式会社（東京都港区）を設立。

Vidyo社、シリーズCラウンドで2500万ドルの調達、セールスとマーケティングを強化

米Vidyo社は、シリーズCラウンドで2500万ドルの調達を実施した。これにより、2005年設立以来、資金調達額が6300万ドルに達した。

今回調達に応じた企業は、既にVidyo社に出資済みの企業で、Menlo Ventures社、Rho Ventures社、Seven-Rosen Funds社、Star Ventures社が資金提供を行った。Vidyo社は、今回の資金提供を受け、同社のセールスとマーケティングを強化する。

Vidyo社は、ウォールストリートジャーナル誌（WSJ）の「The Next Big Thing- The top 50 venture backed companies（WSJ誌が定めるベンチャー企業トップ50）」にランクインしており、ボードメンバー評価では第4位に入る。

米シスコシステムズ社のタンバーク買収完了

米シスコシステムズ社は、ノルウェーのタンバーク社の買収を完了したと発表。買収金額は、発行済み株式一株当たり170ノルウェークローネ。総額190億ノルウェークローネ(約33億ドル)。(4月18日)

同社は、すでに同買収について、EU 欧州委員会と米司法省から承認を得、数週間以内に買収が完了すると発表(3月30日)していた。

買収手続き完了により、米シスコシステムズの子会社 Cisco Systems Netherlands Holdings BV 社が、約91.1%のタンバーク社の議決権付きの株主となる。

しかし残りの株式については、90%以上の株式を取得した株主に対して法的に認められた株式取得権(compulsory acquisition)をもって、一株当たり170ノルウェークローネで残りの株式取得を Cisco Systems Netherlands Holdings BV 社が実施する。完了後、タンバーク社のオスロ証券取引所での上場を廃止する手続きを計画している。

タンバーク社 CEO であった Fredrik Halvorsen 氏は、テレプレゼンス テクノロジー グループ シニア バイスプレジデントに就任する。このテレプレゼンス テクノロジー グループは、イマージング テクノロジーズ ビジネス グループ組織内に所属する。イマージング テクノロジーズ ビジネス グループを統括するのは、シニアバイスプレジデント Martin De Beer 氏。テレプレゼンス テクノロジー グループのビジネスは、端末、インフラ装置、Cisco TelePresence クラウドサービスに注力する。

サードパーティ製の会議端末も含めた相互接続性を重視しながら、シスコの TelePresence 製品に、タンバークの製品を統合することで、ユーザにとって幅広く柔軟な製品あるいはサービスを提供する考えだ。

導入・利用事例

バンク・オブ・アメリカ、世界最大規模で Cisco TelePresence を導入

米シスコシステムズ発表(3月29日)によると、バンク・オ

ブ・アメリカ(Bank of America)は、シスコの「Cisco TelePresence システム」を年末までに200台導入する。バンク・オブ・アメリカでは現在28台の Cisco TelePresence システムが稼働しており、行員の会議や研修に活用されている。

今回の導入は世界最大規模になるという。1室あたり最大6名まで参加できるものから、最大18名まで対応のものまで、さまざまな構成のシステムが導入される予定。

またシステムの導入に合わせて、マネージドサービス契約も利用する。これにより、シスコは、バンク・オブ・アメリカに対して、TelePresence 機器の設置、サポート、メンテナンスなどをおこなうとともに、アクティブモニタリング、技術サポート、コンシェルジュサービスを提供する。さらに、同行が社外の Cisco TelePresence ユーザと接続が行えるようになる企業間コラボレーションも提供する。

バンク・オブ・アメリカでは、ビジネス機会に対応するため革新的なテクノロジーを導入するという取り組みをおこなっており、今回の Cisco TelePresence を全社的に導入することはその一環となる。行員同士のコラボレーションや連携を効率化することで、世界中の顧客や取引先のために行員の能力を最大限発揮できるようになる結果、持続的な利益がもたらされると同行では期待している。

Bank of America <https://www.bankofamerica.com/>

TANDBERG EBC レポート

日本タンバーク

TANDBERG Executive Briefing Center ツアーレポート

日本タンバーク株式会社は、売上がこの1年で3倍に拡大し、この数ヶ月で社員7人増員する予定という。そういった中、「TANDBERG Executive Briefing Center(エグゼクティブ・ブリーフィング・センター)」を、都内にある同社

の本社オフィスに4月1日開設した。CNAレポート・ジャパンの橋本は、4月14日に記者発表会にあわせEBCツアーに参加させていただいた。

このEBCは、「タンバークの価値を体感できる場」とともに、「ビジュアルコミュニケーションを経営に活かす提案をする場」と同社では説明する。タンバークが提案するビジュアルコミュニケーションの全体像や今後同社が目指す方向性を理解してもらうとともに、最適なソリューションの導入検討に役立ててもらいたいと同社では考えている。

ビデオ会議システムは、映像や音声、データを扱う通信端末であるため、単純にカタログや仕様を見るだけで最適な機器を選定することは難しい。特に初めて導入を検討している企業にとってはなおさらだ。「そのため、オフィスの会議室などを再現しているEBCで実際に製品を試してみること、ビデオ会議の導入効果や、システムの性能、使い勝手についての理解を深めてもらえればと考えている。」(日本タンバーク)

EBCは、7階と11階との2フロアに設置されており、ガイド付きツアーは、11階の本社オフィスの受付のあるところからスタートする。



日本タンバーク受付、正面にTANDBERG E20が見える。EBCのガイド付きツアーはここから始まる。

受付に電話機が置かれている会社はよくあるが、ここでは「TANDBERG E20」が設置されている。ビデオ会議端末は遠隔の人と通話するためのものという認識が一般的だが、このような使われ方は、初めて見る人からすると面白く感じる人もいるかもしれない。この受付は、受付というオフィスの一

機能であるけれども、そういった使い方もあると、それとなくスマートに提案している場のような感じにも見える。

その受付での説明後、タンバークの企業概要を紹介するプレゼンテーションコーナーに案内をしていただいた。

そこではまずディスプレイに表示された、いくつかのスライドを拝見した。日本タンバークは、2002年7月に設立され、2007年1月には大阪オフィスもオープンした。その間ワールドワイドの市場でのシェアを中堅クラスからトップシェアの企業までに成長した。現在では90カ国で同社製品を提供している。市場の拡大とともに、ビジュアルコミュニケーションの有効性に対する認知が広がってきていると説明する。

またこのコーナーでは、今後のタンバークが目指す方向性や将来像を示すビデオも紹介している。ビジュアルコミュニケーションが職場だけでなく家庭などにもユビキタスに浸透していく近未来が描かれている。

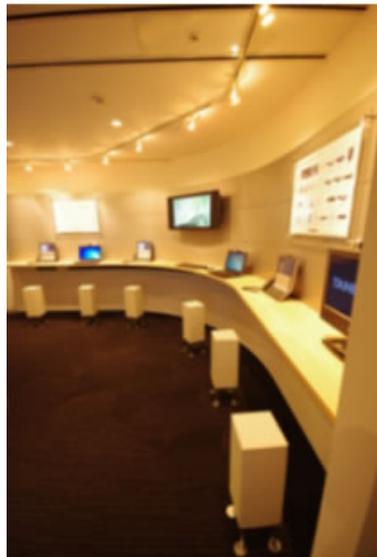
昨今の端末やネットワークの技術の進化を踏まえてこういった映像を観ると、ビデオが描くビジュアルコミュニケーション社会は全くの絵空事ではなく、明日にも実現できそうな現実感覚に近づいてきたことを感じる。

しかし、こうなると、videoconferencing(ビデオ会議)という言葉はそぐわなくなっていくだろう。今後同社では、visual communication(ビジュアルコミュニケーション)という呼び方に変えていくという。こうなると、電話では今まで”say hello”だったのが、相手の顔が見えるコミュニケーションになるため、タンバークが言うところの”see hello”になっていくのだろう。

またこのビデオには、タンバークの企業として目指す究極の企業像も込められている。人々のあらゆるビジュアルコミュニケーションにオールラウンドに端末からネットワークまでを提供することを目指している。壮大なビジョンを持った企業と見える。

(次のページへ続く)

受付の隣には、デスクトップ製品を展示したプロダクトショーケースのコーナーがある。このコーナーでは、先ほどの受付にあった「E20」の他、PC ソフトウェアの「Movi」、そして最近



プロダクトショーケース

や、出張先、または、テレワークなどいろいろな場所でビデオ会議が活用できるようになる。



ガラス越しに見えるのは MCU などのインフラ装置。写真左手の画面には、TMS の操作画面が表示されている。

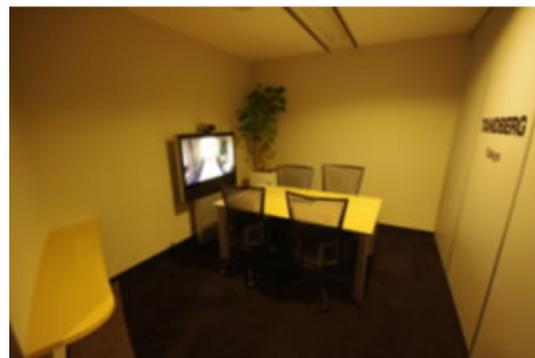
プロダクトショーケースを前方左の方向に進むと、インフラ製品が展示されているコーナー(写真上)に来る。「Codian MCU」などのインフラ装置がガラス越しだが実際に稼働している状況が見られる。左手に見えるディスプレイには、TMS(TANDBERG Management Suite、ビデオ会議ネットワークの運用管理を行うシステム)の操作画面も紹介している。一元的に簡単に運用管理ができるのが特長で大規模運用や端末が多様化した環境では必須のシステム。ここに展示

されている TMS は、7 階と 11 階の端末を全て管理している。またこのコーナーで受けた説明によると、数百台規模の導入の要望にも迅速に対応する体制を日本国内にも整えているという。

ここまでが 11 階のフロアで展示されているコーナーで、以下 7 階のフロアに移る。

この 7 階のフロアでは、HD 対応のビデオ会議端末と会議テーブルが設置された、一般的な会議室を再現された部屋が準備されている。ビデオ会議を会議室で使う際のイメージや使用感をつかんでもらうためのものだ。特に初めてビデオ会議を導入する場合こういった EBC はとても便利だと思う。

この EBC には、2~4 人や 6~8 人向けの会議室が一部屋ずつ、また、8~10 人向け役員室や 18 人着席できるオーデトリウムがある。そして、この EBC にはタンバークのハイエンドテレプレゼンス TANDBERG T3 ルームもある。



2~4 人向けの会議室

ビデオ会議システムの選定においては、部屋の大きさや用途を考慮すべきとタンバーク社員。それに加え、ディスプレイが主であるのか、あるいは、資料も共有するのかによってディスプレイのサイズと台数を考えたほうが良いという。

この EBC の各会議室では、それらを考慮してビデオ会議端末を設置している。2~4 人向けの会議室では、42 インチのディスプレイ 1 台が設置されており、また 6~8 人向けの会議室では、52 インチのディスプレイを 2 台設置している。さらに、8~10 人向け役員室では、65 インチのディス

プレイを搭載した「TANDBERG Profile 65」を設置。



6～8人向けの会議室



8～10人向け役員室

6～8人向けの部屋では、52インチのディスプレイを2台設置しているが、ディスカッションが主であれば65インチディスプレイ1台でも問題ないという。しかし、資料共有も行うのであれば、やはりディスプレイが2台はあったほうがよいという。なぜなら、相手の顔と資料を1画面で表示しなければならないが、2台あれば、1台の方に相手の顔、そしてもう一台の方に資料を表示できるためだ。そうすれば、ひとつひとつのディスプレイに、人も大きく映せるし、データ資料なども細かいところもよく見える。

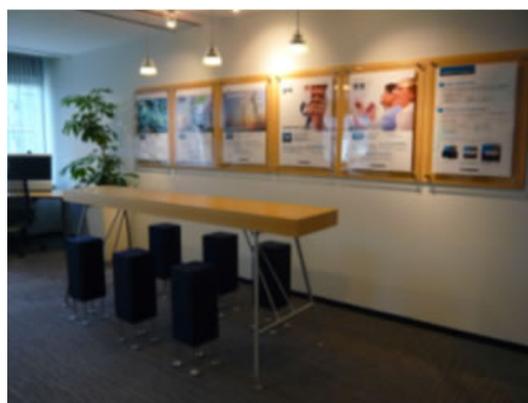


18人着席できるオーディトリウム

次に、18人着席できるオーディ

トリウム。この部屋では、壁面埋め込みの65インチのディスプレイが2台の他、カメラは、前方の1台と、天井に1台（写真では見えない）設置されている。遠隔地も含めたセミナーやトレーニング用途に最適なルームレイアウトになっている。

会議室と会議室との間には、ラウンジがある。ここでは、製造、金融、エネルギー、医療、教育と業種毎の導入事例を紹介したパネルを閲覧することができるようになっているが、各業種においてタンバークのビデオ会議の採用が広がっていることがわかるようになっている。



ラウンジ、その奥がエグゼクティブデスク

またそのラウンジの奥（写真左端中央、窓ガラスのところ）には、エグゼクティブデスクのコーナーがあり、ここではTANDBERG EX90が展示されている。5月から出荷開始。新製品を体感できるようになっている。



エグゼクティブデスク

EBCのツアーの最後は、「TANDBERG T3」。このテレプレゼンスシステムは、意思決定などハイレベルな用途向きだという。

TANDBERG T3 は、システムに話しかけているのではなく、あたかも目の前に人がいるかのようにフェイスツーフェイスでナチュラルに近いコミュニケーションができることを目的に開発されている。



TANDBERG T3 ルーム

印象としては、静かな部屋の中、落ち着いて、そして、集中して会話ができる環境が提供されている。同室感がテレプレゼンスシステムの胆であると言われているが、コーデックのスペックだけでなく、壁面やシステムなどの色や照明などのインテリア的な要素も加味して、高度で多様な技術が組み合わさってこの環境が実現しているということが T3 を拝見してよくわかる。

こういったテレプレゼンスシステムを見ることになるとは、10年前には予想もできなかったが、技術もそこまで進化したのかという感慨深いものがある。これはやはり、ビデオ会議と呼ぶよりは、やはりテレプレゼンスの方がふさわしい呼び方じゃないかという気がしてくる。

EBC ツアーの予約は、日本タンバークまたは、販売代理店にて受け付けている。(EBC レポート終わり)

セミナー・展示会情報

<国内>

コスト削減、業務効率化、パンデミック対策にも有効
早分かり！Web会議導入の秘訣&事例セミナー
ASP型Web会議システム国内シェアNo.1のブイキューブがWeb会議システムの選び方のポイントや活用事例を紹介

日時：5月11日(火)14:30~16:45(受付開始14:15~)

会場：中目黒GTプラザホール(東京都目黒区)

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<http://www.nice2meet.us/ja/news/index2.php?id=400>

SaaSBaord無料セミナー

厳冬の経済状況に一筋の光明

ワークスタイル革新で 劇的経費削減と推進力増強

日時：5月21日(金)13:30~17:00(13:00開場)

会場：渋谷区商工会館 2Fセミナー室

(東京都渋谷区渋谷1-12-5)

主催：ニューロネット株式会社

コンサルテイメント、ライド株式会社

詳細・申込：

<http://www.neuronet.co.jp/seminar/mailform100521.html>

RADVISION テクノロジ・ソリューション・セミナー2010

日時：5月25日(火) 13:00~16:40(受付:12:00~)

会場：新宿京王プラザホテル(東京都新宿区)

主催：RADVISION Japan株式会社

詳細・申込：<http://www.radvision.jp/t-seminar/>

*本社マーケティング責任者、開発責任者などの講演、TBU製品やVC240デモのなども予定。

テリロジー・VTV ジャパン共同セミナー開催

「ワークスタイル変革!!」Vidyo Conferencing

ソリューション セミナー

東京2会場 大阪会場をつないで3次元中継

日時：5月26日(水)15:00~18:00(受付開始:14:30)

会場：東京会場：

第1会場：株式会社テリロジー 第一会議室

第2会場：VTV ジャパン株式会社 東京本社 デモルーム

大阪会場：

VTV ジャパン株式会社 大阪オフィス デモルーム

主催：株式会社テリロジー、VTV ジャパン株式会社

詳細・申込：

<http://www.vtv.co.jp/seminar/1005sterilogy/index.html>

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

TeleSpan のセミナーレポートは、次回に掲載いたします。遅くなりまして申し訳ございません。

次回も宜しくお願いします。

(橋本啓介)